



## 説教要旨 「渇きを潤す命の水」

ヨハネによる福音書 7 章 32～39 節

ヨハネによる福音書の 7 章の舞台となっているのは、仮庵祭と呼ばれるお祭りです。イスラエルの民がエジプトを脱出した後、荒れ野の中で 40 年もの間、苦しみながらさすらいの生活をしました。その長いさすらいの旅で人々は、飢えに悩まされ、飲み水がなくて喉の渇きに苦しめられました。その時、神はモーセに命じ、モーセが杖で打った岩から水を湧き出させ、民は渇きを癒されたのです。この出来事を覚えて、仮庵祭の最終日にはエルサレムにあったシロアムの池の水を汲んで神殿に運び、祭壇に水を注ぐという儀式が行われました。人々は歌を歌い、楽器を鳴らし、祭壇に水が注がれると歓声が上がります。イエスは、この儀式の最中、人々が盛り上がっていたその時に、大声で、「渇いている人はわたしのところに来て飲みなさい。」(37 節) と告げました。あなたがたが本当に必要としている水は、この水ではないだろう。あなたがたの渇きを一時的に癒すが、再び渇くではないか。あなたがたに本当に必要な水、もはや渇くことのない水をあなたがたに与えよう。そう言って人々を招かれたのです。

人は生きていく上で様々な渇きを覚えます。その渇きを癒そうとして、お酒に溺れたり、ギャンブルに興じたりする人もいます。しかし、それはただの一時しのぎに過ぎず、醒めてしまえばより強く渇きを覚えるのです。イエスは、そんな一時しのぎではなくて、わたしたちの渇きを根本から癒す命の水を与えてくださると約束してくださいました。

渇ききって、骨のように涸れたわたしたちは、この命の水によって内側から新しく造りかえられるのです。そればかりではない。その私たちの中からも、生きた水が川となって流れ出るようになる。この水を飲んだ私たちは、渇いた世にあって「水の涸れない泉」として、この世の荒れ野の中に命の水を、神の愛をあふれ出させるのです。そこに、仮庵祭りが目指していた本当の潤い、魂の渇きの癒しがもたらされ、仮庵の祭りが目指した本当の喜びが満ち溢れるのです。

(2020・5・24 説教者：稲垣真実)